

L-3

W T T C加靈芝，梅寄生のアトピー性皮膚炎への効果

○土方康世¹⁾，安原昭博²⁾，吉田由香²⁾，日比野 健³⁾
医療法人 東洋堂土方医院¹⁾，関西医大附属香里病院 小児科²⁾，
日東メディカル株式会社³⁾

【目的】W T T C加靈芝，梅寄生（W T T C G E）が，単純ヘルペス感染症である口唇ヘルペス，性器ヘルペスに有効である事を本学会（年会）で報告した。今回は，H S V感染が推定されるアトピー性皮膚炎への効果を検討した。

【対象】アトピー性皮膚炎の9歳6ヶ月男児と7歳11ヶ月女児。

【結果】症例1：上記症状のアトピー性皮膚炎の9歳6ヶ月男児にオキサトミドと共にW T T C G Eを投与したところ，好酸球27%が，2ヵ月後には11.5%，3ヵ月後には5%と正常化すると共に，8ヵ月後にはアトピーによる痒みも消失した。また感染が原因と思われる皮疹も顕著に改善した。初診時高値であったインターフェロンも2ヵ月後には正常化した。N K細胞活性は，初診時24%，2ヵ月後39%，8ヵ月後には60%と増加した。本症例については，臨床的に漢方薬が非常に有効であった。

症例2：ウイルス感染性炎症によると推定される強い痒みのある皮疹を伴ったアトピー性皮膚炎の7歳11ヶ月女児に，W T T C G Eのみを投与した。1ヵ月後の受診時，アトピー性皮膚炎症状，並びに痒みがかなり改善し，感染が原因と思われる皮疹も少し改善した。2ヵ月後の受診時には，アトピー性皮膚炎症状，痒みが顕著に改善し，ウイルス性が疑われる皮疹もかなり消失した。N K細胞活性は34%から48%にまで増加した。

【考察】2症例とも漢方薬によってN K細胞活性が上昇していることから，これらのウイルスがN K細胞により力価が減少し，ウイルス感染による悪化が減弱されることによりアトピー性皮膚炎症状も改善したと推察される。本症例でH S Vの分離や血清学的な証明はできなかったが，臨床的にH S V感染を伴うアトピーの悪化と考えられた。W T T C G Eがこのような症例に対し非常に有効であったことから，今後，さらに症例を増やして検討したい。